

2024 10/8

No.2220

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



オカピの赤ちゃん(雌)がよこはま動物園ズーラシア(横浜市旭区)で一般公開されている。7月に生まれたばかり。10月18日は「世界オカピの日」で12~14日に催しも。



視点点描	
廃線の記憶たどる一冊	3
特集	
緊迫の中東情勢 米衰退と中国躍進 戦闘は点から面に 日本積極関与を	4
経済双眼鏡	
財界の劣化 目に余る「政治追従」	8
よんななエコノミー	
〆とりあえず、の予約とキャンセル	9
平井久志×リアルワールド	
ディープフェイク性犯罪が拡大	10
辛酸なめ子のNEWS箸休め	
予言者「老い」を語る	11
本郷和人 歴史の舞台をゆく	
瑞巖寺・上々段の間が 〆仙台、	12
かながわTODAY	
9月の主な経済ニュース	14

### 事務局だより

◇2024年10月定例講演会  
10月30日(水)午後1時30分  
～3時  
メルヴェーユ(桜木町駅近く)  
講師：慶應義塾大教授・  
渡辺 靖氏  
演題：「米大統領選の行方～  
混迷深まる超大国はどこへ」

◇2024年11月定例講演会  
11月20日(水)午後1時30分  
～3時  
ロイヤルホールヨコハマ(山下町)  
講師：ジャーナリスト・  
鮫島 浩氏  
※政局について語っていただく予定です

◇2024年12月定例講演会  
=シンポジウム・交流会  
12月16日(月)午前11時～午後  
1時30分  
メルヴェーユ(桜木町駅近く)  
講師：共同通信社政治・経済・  
外信部長(予定)  
演題：「2025年の動向を読む」

【お知らせ】 神奈川政経懇話会では、会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045 (226) 2121。

# 視点 点描



## 廃線の記憶たどる一冊

え残す企画に携わり、このたび書籍化された。鉄道ジャーナリストが神奈川新聞のニュースサイト「カナロコ」で2023年秋から翌年初めまで約3カ月にわたり、10路線について連載した記事をベースに大幅に加筆した。

どの路線も歴史的背景や栄枯盛衰のドラマがあつて、とても興味深いのだが、特にウェブ公開時に反響が大きかったのが、「ドリームランドモノレール」だ。わずか一年半で運行休止となった、文字通り「夢の交通」の物語は大勢の思い出として残っていたようで記事は1本だけで十数万人に届いた。

した約1・5<sup>キロ</sup>の支線で知る人ぞ知る渋い存在にもかかわらず、記事は数万人が閲覧した。2004年に地下化・廃線となった「東急東横線」も関心が高かった。今もJR根岸線の横浜駅から桜木町駅まで並走する高架橋が日常的に見られるためだろうか。

廃線は普段は気にとめられない存在だけに、ウェブを通じて光を当てられた実感がある。書籍「かながわ鉄道廃線紀行」は今月半ば、書店に並ぶ。遠い記憶を次世代に伝え残す地方紙の役割の一端を担えたのではないかと安堵あんどしている。

新しい日本の首相が決まり最

交通の要衝の神奈川には、貨物

初の号となる本欄だが、鉄道の話  
をしたい。しかも廃線跡について。

線を含め東西南北、縦横無尽に鉄  
路が敷かれ、多様な鉄道網と個性

言うまでもなく神奈川・横浜は、

的な駅舎が存在してきた。一方、震

明治5（1872）年に日本で初  
めて汽車が新橋―横浜間を走った

災や戦災、都市化の進展もあつて  
貴重な鉄道施設の痕跡がわずかし

「鉄道発祥の地」である（記念す

か残っていない路線も少なくない。

る10月14日は「鉄道の日」だ。

こうした廃線の記録と記憶を伝

気。砂利採取の専用線として開通

また「相模線西寒川支線」も人  
（神奈川新聞社統合編集局長  
デジタル編集担当・牧野 昌智）